

■5月1日

ボーイング787対応;日航、6月1日から営業運行を再開

日航は30日、ボーイング787の営業運航を6月1日に再開すると発表した。

同社が同日発表した2013年度路線計画によると、ボーイング787を成田とボストン、サンディエゴ、シンガポール、羽田空港とシンガポール、北京を結ぶ計5路線で運航を再開する。

またその他の路線へも順次投入を行う。新規開設を延期していた成田－ヘルシンキ線については、7月1日の開設も併せて発表した。7月12日からは成田－デリー線。9月1日からは、成田－モスクワ、羽田－サンフランシスコ線へ投入。12月には1日に成田－シドニー、2日に成田－バンコク線でも投入する予定だ。

(産経ニュース)4/30

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130430/biz13043018240025-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130430/biz13043018240025-n1.htm>)

(JALプレスリリース)4/30

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201304/002491.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201304/002491.html>)

政府、関西3空港一体運用—国家戦略特区構想

訪米中の西村康稔内閣府副大臣は29日、ワシントン市内で講演し、規制緩和や税制優遇を進める「国家戦略特区」に関連して、空港や港湾の一体運用や先端医療産業の集積を盛り込んだ関西圏での特区構想を明らかにした。

関西国際、伊丹、神戸の3空港と大阪港・神戸港を一体運用して空港の発着枠などの規制を緩和するほか、周辺の物流拠点を効率的に整備して国際競争力を高める。アジアの富裕層を呼び込む目玉として、大阪湾ヘカジノなど統合型リゾートを誘致する案もある。

また アジアの富裕層を呼び込むため、大阪港でのカジノの運営も検討する。西村氏は「税制を含め相当思い切った特区にしたい」と強調した。

(産経ニュース)4/30

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130430/fnc13043012170010-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130430/fnc13043012170010-n1.htm>)

(日経)4/28

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2700W_X20C13A4NN1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2700W_X20C13A4NN1000/)

全日空、現役社員の年金制度改定、確定拠出に

全日空は年金制度を変更する。将来の給付額を約束した確定給付型から、2014年3月期にも運用成績によって給付額が変わる確定拠出型に移行する。現役社員のみを対象とする。

現行の仕組みでは運用成績が低迷すると年金の穴埋め負担が業績を圧迫する恐れがあり、新制度への移行でこうしたリスクを減らす。

年金積立不足額の開示を求める新ルールに対応する狙いもある。

全日空本体の1万1000人の従業員に対し制度変更を提案した。移行には法律上3分の2の同意が必要で、今期中の取り付けを目指す。

(日経)4/30

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD29009_Z20C13A4TJC000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD29009_Z20C13A4TJC000/)

スターフライヤー、3月利用実績、国際線平均搭乗率61.4%

スターフライヤーは30日、3月の利用実績を発表した。

それによると、国内線旅客数が前年同月比2.7%増の10万836人、提供座席数が5.7%増の14万6633席、平均搭乗率は1.9ポイント減の68.8%だった。福岡ー羽田線は83.4%と高搭乗率であったが、他の国内2路線は前年同月比でL/Fが低下した。

一方北九州ー釜山を結ぶ国際線は、運航便数は124便で、旅客数は11,353人、平均搭乗率が61.4% (7月82%、8月54.0%、9月37.5%、10月42.5%、11月59.7%、12月60.7%、1月46.7%、2月58.4%)となった。2月、3月と搭乗実績は向上しているが、採算ライン(65%)は依然下回っている。

(スターフライヤー プレスリリース)4/30

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130430027726.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130430027726.pdf>)

(aviationwire)4/30

<http://www.aviationwire.jp/archives/19803> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/19803>)

全日空、シンガポールに投資管理会社設立

ANAホールディングスは30日、2016年3月期までの新たな中期経営計画を発表し、アジアの航空ビジネスに対して戦略的な投資を行っていく方針を明らかにした。6月にシンガポールに投資管理会社を設立。昨年の公募増資などで得た資金を活用し、航空会社や航空関連事業を行う会社に投資を検討する。

同社は昨年8月、公募増資で約1700億円を調達。財務基盤を強化するとともに、アジアを中心とした海外に投資を行う方針を示していた。シンガポールではスピード感をもった情報収集が行えるほか、税金面での優遇が得られる。

(ロイター)4/30

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE93T05120130430?pageNumber=2&virtualBrandChannel=0> (-> <http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE93T05120130430?pageNumber=2&virtualBrandChannel=0>)

(ANAプレスリリース)4/30

<http://www.anahd.co.jp/pr/201304/20130430-2.html> (-> <http://www.anahd.co.jp/pr/201304/20130430-2.html>)

HAC、丘珠ー三沢線、7月1日開設を発表

HACは30日、札幌(丘珠)ー三沢(八戸)線を7月1日から就航すると正式に発表した。1日1往復で、運航所要時間は約60分。7月中は搭乗日の前日までに予約・購入すると、通常2万1000~2万3000円の運賃を1万5000円に値引きする新規就航キャンペーンを展開する。

同日、日航も、2013年7月1日ご搭乗分よりHACが運航する全便においてコードシェアの開始を発表した、販売開始日は2013年5月1日から対象座席の販売を始める。

(HACプレスリリース)4/30

<http://www.info.hac-air.co.jp/news/759/> (-> <http://www.info.hac-air.co.jp/news/759/>)

(JAL プレスリリース)4/30

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201304/002492.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201304/002492.html>)

(読売新聞)5/1

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20130501-OYT8T00065.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20130501-OYT8T00065.htm>)

HAC、銀行からの借入金返済

北海道エアシステムの資金繰り問題で、同社は30日までに、道の損失補償を受けた北洋銀行と北海道銀行からの借入金計1億1000万円を完済した。4月中に国や道などから交付された離島運航への補助金約1億2700万円を充てた。また、月末の2行からの追加借入れは見送った。読売新聞が報じた。

新たな事業計画では、4月末にも手元資金が400万円不足するとしてきたが、4月中は悪天候を理由とした欠航が2便にとどまり、大型連休期間の各路線の事前販売が好調だったため、資金繰りが好転したという

(読売新聞)5/1

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20130501-OYT8T00065.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20130501-OYT8T00065.htm>)

ボーイング787対応：全日空、日航、運航停止—2013年度決算、営業利益押し下げ

(日経によると)

日本航空とANAホールディングスは30日、2013年3月期の連結決算を発表した。旅客需要そのものは好調だったが、ともに新型機「ボーイング787」の運航停止や円安の影響が避けられなかった。JALの経常利益は1858億円と前の期比6%減り、ANAは13年1～3月期の経常赤字が121億円(前年同期は30億円の赤字)に拡大した。

JALは成田—ボストン線の開設などで旅客数が伸び、前期の売上高は1兆2388億円と前の期比3%増えた。純利益は8%減の1716億円。減益だが最高益だった前の期(1866億円)に迫る高水準を確保したことから、配当は年190円と従来予想から10円上積みする。

7機保有する787の運航停止が1～3月期に13億円の営業減益要因となり、円安に伴う約130億円の燃油費上昇も響いた。

一方、787を17機保有するANAは運航停止による営業利益の押し下げ要因が35億円弱に上った。前期の売上高は5%増の1兆4835億円、経常利益は769億円だった。コスト削減などで営業利益は1038億円と最高を更新したものの、従来予想(1100億円)に届かなかった。

両社とも6月に787の運航を再開。JALは4～5月の停止を前提に26億円の営業減益要因を見込み、ANAは4～6月期の3カ月間まるまる停止するという前提で40億円程度の減益要因を想定している。

(日経)4/30

http://www.nikkei.com/markets/kigyo/gyoseki.aspx?g=DGXNASDD300H6_30042013TJ0000&dg=1 (-> http://www.nikkei.com/markets/kigyo/gyoseki.aspx?g=DGXNASDD300H6_30042013TJ0000&dg=1)

スカイマーク、那覇—宮古、那覇—石垣線、普通運賃5,000円に設定

スカイマークは30日、那覇—石垣線を7月10日就航すると発表した。

同時に、「那覇—宮古線」、ならびに7月10日に就航する「那覇—石垣線」において、それぞれ普通運賃を5,000円に設定した。(7月1日-9月30日までの搭乗分)

両路線においては、JTA、全日空の割引運賃の値引き競争が始まっており、スカイマークが普通運賃を5000円に設定したことで、同路線の価格競争が目立つ。

(参考)JAL普通運賃(3月31-9月30日)

(スカイマーク プレスリリース)4/30

http://www.skymark.jp/ja/company/press/130430_press.pdf (-> http://www.skymark.jp/ja/company/press/130430_press.pdf)

(JALプレスリリース)1/18

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxMzAxMThfSkdOMTIxOTBflcqOhi0xM4/jivqJXpLAIvxfjEucGRm.pdf (->

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxMzAxMThfSkdOMTIxOTBflcqOhi0xM4/jivqJXpLAIvxfjEucGRm.pdf)

スカイマーク、羽田—旭川線、7月1日に就航、茨城—那覇線は直行便へ

スカイマークは30日、7月1日～7月9日の運航ダイヤ計画を発表した。

新規に就航するのは羽田—旭川線で、7月1日より1日1往復で就航する。
また、現在神戸経由で運航していた茨城-那覇線は、7月1日から直行便となり、1日1往復で運航を行う。

(スカイマーク プレスリリース)4/30

http://www.skymark.jp/ja/company/press/130430_press_schedules.pdf (->
http://www.skymark.jp/ja/company/press/130430_press_schedules.pdf)

エアアジア・ジャパン (LCC)、2012年度輸送実績、利用率、国内・国際共に60%台

ANAホールディングスが4月30日に発表した2013年3月期通期連結決算によると、連結子会社のエアアジア・ジャパンの2012年度輸送実績は、国内線で旅客数は34万人、利用率が63.9%、国際線は旅客数6万人、利用率は61.9%になった事が分かった。

(日刊航空)5/1

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-04.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-04.pdf>)

日航、2013年3月期連結業績、減益も利益率15.8%達成、配当金は190円へ

日航は4月30日、2013年3月期連結業績について、売上高が1兆2,388億円(前年同期比2.8%増)、営業利益は1,952億円(同4.7%減)、経常利益1,858億円(同6%減)、最終利益は1,716億円(同8%減)となったことを発表した。減益となったものの、営業利益率は15.8%と、中期計画上の目標である15%以上をクリア、自己資本比率も目標の50%に対して46.4%(2012年3月期は35.7%)まで高めることができた。

2013年3月期の配当金について、前回予想(2月時点)から10円増額し、1株当たり190円を予定すると発表した。配当金の総額は323億8,500万円、配当性向は20.1%となる。

(日刊航空)5/1

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-02.pdf>)

ANAホールディングス、2013年3月期連結業績、営業利益1038億円過去最高

ANAホールディングスは4月30日、ANAグループ2013年3月期の連結業績を発表した。同期は、中国線の需要減退や787型機の運航停止などもあったが、国際線、国内線とも旅客需要は堅調に推移した。こうした中、国際線での新路線就航や増便など事業規模拡大により、売上高は720億円増収となる1兆4,835億円(前年同期比5.1%増)を計上、営業利益は1,038億円(同7%増)、経常利益も769億円(同12.4%増)とそれぞれ過去最高を更新した。当期純利益は431億円(同53.1%増)で、前期の1.5倍増となった。なお、4円配当は据え置く。

(日刊航空)5/1

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0501-03.pdf>)